

日本のホッケー

日本でも多くの人がホッケーに魅了され、プレーをしている。日本とオーストラリアのホッケーの違いを元日本代表候補のホッケー選手で、現在パースのホッケー用品を主に扱っている会社「Cultor」に勤める佐敷剛成さんに伺いました。



Cultor Pty Ltd.
佐敷剛成さん

Q：佐敷さんのパースに来たきっかけを教えてください。

A：ホッケーは4、5歳くらいに元日本代表だった父の勧めで始めて、18歳以下の代表候補選手に1回選ばれたことがあります。昔から父が「ホッケーはオーストラリアが1番強い」と言っていたので、高校卒業後にオーストラリア国内でも強いパースに来ました。

最初に入った、選手が何千人もいる大きなクラブチームで出会った人を通して、今の会社と出会いました。

Q：佐敷さんにとってホッケーの楽しさとは何ですか？

A：1番は展開の早さですね。例えばサッカーより、展開の速さ、ドリブル、シュートの速さ、個人技のすごさはあると思います。

Q：ホッケーの魅力は何だと思えますか？

A：ここ3、4年で、いろんなブランドからかわいいデザインのスティックやかっこいいもの、他に限定版などができて、テニスみたいにだんだんファッション化しているのは魅力ですね。プレーでいうと、やっぱりシュートです。これだけ速いシュートが入るスポーツは多くないので。また、一歩間違えたら本当に危険な競技ですが、もともと紳士的なスポーツなのでルールがしっかりしていて、誰でも楽しめるのも魅力だと思います。

Q：日本とオーストラリアのホッケーは、何が違いますか？

A：技術で言ったら、練習量が多い日本の選手の方が上手いと思

います。でもオーストラリアの方がコーチの質が高く、選手たちは短い時間に集中して、実戦にかなった様々な場面でのプレーの方法を教えてください。コーチの質、教え方の差は大きいと思いますね。

Q：精神的な面ではいかがですか？

A：海外のチームを見て思ったのは、日本より実戦のプレッシャーを良く知っていることです。それは大きな大会での経験の違いもありますが、オーストラリアでは練習でも本気でやって、ケガはした選手が悪いくらいの気持ちでやっているのと、日本のケガをしないようにやっている練習の質の差があると思います。その結果、いざ試合になってプレッシャーに負けてしまう選手が多くでてくるのだと思います。

Q：設備や周りの環境の違いという点では？

A：人工芝のホッケー場の多さで言ったら、日本の方が多ですね。ただ、オーストラリアの場合は人工芝のグラウンド以外に天然芝の公園などがあるので、小さい頃から気軽に芝の上でホッケーを楽しめます。だから、オーストラリアの方が環境は良いと思います。

Q：読者にメッセージを。

A：ホッケーは、日本でも世界的でも、これから少しずつメジャーになっていくと思います。日本がその時に後れないように、今日本側から盛り上げるくらいの勢いがあれば、日本のホッケーは環境もレベルも変わっていくと思います。今はホッケーを知らない人が多いと思いますが、この機会に少しでもこのスポーツを知って頂けたらと思います。観て覚えたらきっと楽しいですよ。



日本のホッケーの歴史

日本のホッケーは、イギリス人のウィリアム・T・グレー牧師が明治39年(1906年)に、慶応義塾で集めた有志に教えたのがきっかけで始まった。大正12年(1923年)には第1回日本選手権も行われ、昭和に入ると国際ホッケー連盟にも加盟し、昭和55年には前身の大日本ホッケー協会から現在の日本ホッケー協会になった。1998年には女子日本リーグが、そして少し遅れて男子日本リーグができ、今では海外遠征や国際大会も通じて世界レベルに着実に近づいている。



Photo Courtesy of Hockey Australia

世界のレベルに日本はもう少し。北京オリンピックが楽しみだな～。

日本男子代表

2006年ドーハ・アジア競技大会 **4位**
 2006年ワールドカップ・メンヘングラッドバハ大会 **9位**
 2008年北京オリンピック **出場未決定**
 ※2008年4月に行われるオリンピック予選日本大会で1位になると出場決定。

世界ランキング 11位 (2007年9月18日現在)

日本女子代表

2006年ドーハ・アジア競技大会 **銀メダル**
 2006年ワールドカップ・マドリッド大会 **5位**
 2008年北京オリンピック **出場決定**

世界ランキング 6位 (2007年9月18日現在)